



## 2018 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (2018 SUPER FORMULA) 第 1 戦: 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)

### レース報告書

予選: 4 月 21 日 (土)

天候	曇り
観客動員数	22,000 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 11 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 4 位

決勝: 4 月 22 日 (日)

天候	晴れ
観客動員数	34,000 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 17 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 5 位

#### <予選レポート>

いよいよ SUPER FORMULA 2018 年シーズンの開幕戦を迎えました。気温は 23°C、路面温度は 33°C で、初夏を思わせるような天候のもと、予選\*Q1 が開始します。64 号車 (ナレイン・カーティケヤン選手)、65 号車 (伊沢拓也選手) の 2 台は揃ってコースインし、ミディアムのニュータイヤでタイムアタックを開始します。初回のアタックを終えてピットに戻ると、2 セット目のニュータイヤに換装し、再びアタックに挑みます。カーティケヤン選手は 6 番手、伊沢選手は 13 番手のタイムをマークし、Q2 進出を決めます。

Q2 は Q1 の上位 14 台で争われます。全車ソフトタイヤを装着し、僅差の接戦が繰り広げられます。残り時間がわずかになったところでコースアウトするマシンが現れ、赤旗が投入されます。残り時間 3 分で再開された最終アタックの結果、カーティケヤン選手は 2 セット目のニューソフトタイヤを投入してタイムアップしたものの、11 番手でノックアウト、残り 3 分で待機していた伊沢選手は 6 番手で Q3 進出を果たします。

Q3 は Q2 の上位 8 台で争われる最終セッションです。伊沢選手は残り時間 5 分のタイミングで真っ先にコースインします。ソフトタイヤによるワンチャンスの勝負となる中、4 番手の好タイムをマークします。TCS NAKAJIMA RACING に加入後初めての決勝レースに 4 番グリッドの好位置から挑むこととなります。

\*Q1: Qualifying Session - Round 1 (公式予選 第 1 ラウンド)。

SUPER FORMULA の予選 (クオリファイイングセッション) では、3 回 (Q1、Q2、Q3) のラウンドに分けて行われるノックアウト方式が採用されています。各ラウンドの制限時間でラップタイムが上位から一定の順位に入らなかった選手はノックアウト (脱落) し、ラップタイムの順位に準じて決勝レースのグリッドが確定します。一方、勝ち残った選手は次のラウンドに進出します。Q3 ラウンドまで進出した選手にノックアウトはなく、最速ラップタイムを記録したドライバーがポールポジションを獲得し、以降、ラップタイムに準じて上位グリッドが確定します。

**<コメント>**

中嶋 悟 総監督:

「Q2 終盤での赤旗掲示など多少の誤算もありましたが、上々の結果だと思います。明日の決勝は走行距離が 300km で、これまでの鈴鹿でのレースよりも長丁場になりますが、しっかりと準備して万全の体制で戦います」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“I think for the first race, medium tire was very good. But this year we have to set two kinds of tires, the soft compound as well. So Q2 we got cut out a bit, missed Q3 by one tenth of a second but I think overall performance for TCS NAKAJIMA RACING is quite positive. Obviously, car #65 is being positioned No. 4 and gladly I am No.11, so close to the points. Tomorrow is a 300km race so we have to consult the tires and get it to the points.”

「ミディアムタイヤの印象はとても良かったです。しかし、今シーズンのレギュレーションではソフトタイヤを含め 2 種類のタイヤを使わなければなりません。ソフトタイヤを投入した Q2 では、0.1 秒の僅差で Q3 進出を逃しましたが、全体としてチームのパフォーマンスはとてもよかったです。嬉しいことに、伊沢選手は 4 番グリッド、私は 11 番グリッドで、ポイント獲得にも近づきました。明日は走行距離が 300km の長いレースになります。タイヤの消耗をうまくマネージして、ポイントを獲得できるよう頑張ります」

伊沢 拓也 選手:

「赤旗が出て、少し混乱した予選でしたが、フリー走行からの調子を Q3 までキープできました。4 番手という確実に表彰台を狙えるグリッドを獲得できたことは、オフシーズンにチームとともに取り組んできたことが実を結んだものだと思います。明日は 300km の長いレースなので、最後までしっかり走り切って表彰台を目指します」

**<決勝レポート>**

前日に続き、快晴となった鈴鹿サーキット。午前に設けられたフリー走行をカーティケヤンは 16 番手、伊沢は 7 番手で終え、決勝レースに備えます。

決勝スタート時の気温は 26°C、路面温度は 40°Cと、汗ばむほどの気候の中、13 時 50 分に定刻で全 19 台が 300km レースのスタートを切ります。TCS NAKAJIMA RACING は 2 台揃ってミディアムタイヤでスタート。カーティケヤン選手は序盤でポジションを落とし、伊沢選手もスタートで 3 番手に出ることに成功しますが、1 周目を終える頃に後続のマシンにオーバーテイクされ、4 番手に後退します。その後はしばらく小康状態が続き、カーティケヤン選手は 1 つポジションを回復し 14 番手に順位を上げます。

先頭の 2 台が後続を引き離す展開の中、4 番手を走る伊沢選手も必死に食らいついていきます。20 周目を過ぎると、ピットストップするマシンが現れ、約半分のマシンがピット作業を終えてコースに戻ります。

トップを含む上位のマシンのピットストップのタイミングに注目が集まりますが、なかなかピットには入らないまま、折り返しの周回が終わる頃、カーティケヤン選手は 6 番手、伊沢選手は 3 番手を走行。その後、伊沢選手が 31 周目で、その後、カーティケヤン選手は 33 周目でピットストップを行い、それぞれソフトタイヤに換装します。

その他のマシンもピットストップを終えた時点で、伊沢選手は 6 番手を、カーティケヤン選手は 12 番手を走行します。それぞれ前車を懸命に追いますが、カーティケヤン選手は 38 周目でコースアウトを喫して再びピットに戻ります。タイヤ交換とマシンチェックを終え、17 番手でコースに復帰し、そのままチェッカーフラッグを受けます。

順調に周回を重ねてきた伊沢選手は終盤で 2 ストップ作戦を選択したライバルのマシンに背後まで迫られたものの、うまく制して 5 位入賞を果たしました。

**<コメント>**

中嶋 悟 総監督:

「開幕戦から 5 位ポイント獲得となり、好スタートを切りましたが、カーティケヤンはレースラップが速かったものの、ミスでスピンしてしまいました。チームのピット作業を含め、次戦以降で挽回できるよう準備していきます」

ナレイン・カーティケヤン 選手:



“We had some issues, one is starting clutch so the start was not the best but the pace was quite good. Unfortunately, when I did the pit stop and came out, the tires were cold so I lost the position and then I tried to catch up the car #6, which was in front of me. I made a small mistake and dropped out of the track so I lost time. Apart from that, it was ok, but qualifying could have been better. Having car #65 done well, I think we can do well next time in two weeks.”

「今回のレースにはいくつかの反省があります。ひとつはスタートがベストではなかったことです。しかし、レースのペースはとても良かったと思います。もうひとつはピットストップの間に順位を落とし、コース復帰後、前走の6号車(松下信治選手: DOCOMO TEAM DANDELION RACING)に追いつこうとチャレンジしたものの、ミスでコースアウトしてしまったことです。それ以外は順調でしたが、予選の段階で順位を上げられていればよかったと思います。伊沢選手は好成績でしたので、私も2週間後の次戦でよい結果を出せるよう頑張ります」

伊沢 拓也 選手:



「TCS NAKAJIMA RACING に移籍して初めてのレースで5位に入りました。表彰台を狙える圏内にいたので、悔しさも残りますが、よい流れでレースを終えることができました。この流れをキープして、次戦では表彰台に立てるようチームと一緒に準備していきます」

以上